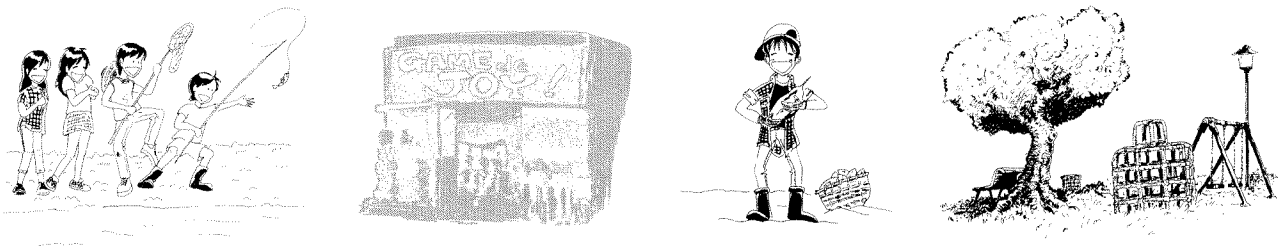


【学習のねらい】

日常生活の中で子どもたちの抱く様々な感情を大人がそのまま受け止めることは、子どもにとっては、ありのままの自分を受け入れてもらったという経験となり、自尊感情を育むということがわかる。

【準備するもの】 時計〈ストップウォッチ・タイマー〉



【進め方】

- (1) となり同士で2人ずつペアをつくる。
- (2) ファシリテーターは、参加者の手がかりになるように子どもの頃の思い出を語る。
(上のイラストを参考にする)
☆その間に、参加者に想起してもらう。(1分間)
☆親の手伝い、子守り、友達と遊んだこと等で、うれしかった・悲しかった・困った・つらかった・腹が立った・怖かった・いやだった等
- (3) 1人が話し手となり、テーマに沿って3分間話してもらう。
・テーマ 「子どものころの心に残る思い出」
聞き手は黙って、ただひたすら聴くように伝える。(うなずく、目を見る)
- (4) 聞き手は30秒で、聴いた印象を聴き手の言葉で話してもらう。
(批判はしない)
- (5) 役割を交替して実施する。
- (6) 話した時の気持ち、聴いたときの気持ち、それぞれの気持ちを全体で共有する。(気づきの共有…話すことによる気持ちよさ、スッキリ感、心の整理がつくこと等)

【留意点】

子どもたちの様々な感情を、周りの大人がそのまま受け止めることが、子どもにとって、ありのままの自分を受け入れてもらった経験となり、自尊感情を育むことにつながる。そこから、子ども自身が問題解決の方向性を見いだしていく可能性に気づき合う。